

令和3年度 学校評価重点目標及び取組と評価指標

令和3年4月

本年度重点目標	具体的な取組	評価指標	判定基準
学びに向かう力の育成と学力向上	・カリキュラムマネジメントの視点から、教科間や学級活動、学校行事とのつながりを十分に意識し、計画的に学習を進めていく。 ・学び合いを充実させるために、基礎基本が定着するように粘り強く指導する。そして、知識や体験をもとに児童同士が考えをつないでいく授業を目指す。	(児童アンケート) 「学校で学ぶことは、楽しいですか。」 ア 楽しい イ だいたい楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない (保護者アンケート) 「子どもは学校へ意欲的に登校していますか。」 ア 意欲的に登校している。イ おおむね意欲的に登校している。 ウ あまり意欲的ではない。 エ 意欲的ではない。	児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが80%以上 D…それ以下
	・主体的に課題解決する児童の育成(学校研究) ・主体的に学び、課題解決へとつなげることができる児童を育成する。	(児童アンケート) 「相手を意識し、自分の考えを根拠を入れて、わかりやすく説明することができている。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (教職員アンケート) 「子ども達に接続詞や学習用語等を意識させ、自分の考えを筋道を立てて説明する指導がなされている。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・教職員アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが80%以上 C…ア+イが70%以上 D…それ以下
	・音読や漢字・計算練習(高学年は自学ノート)を基本に、学年に応じた家庭学習の時間を確保する。 ・家庭学習強化週間は特に、お便り等で呼びかけを行う。また、学級懇談では、家庭学習のてびきを活用し日頃の家庭学習の取組について確認し、改善していく。必要に応じて、個別指導も行う。	(家庭学習調査結果) 家庭学習強化週間記録カードをもとにした、家庭学習の目標(低学年20分・中学年40分・高学年60分以上)達成者数 ア 80%以上 イ 70%以上 ウ 60%以上 エ 60%未満	A…ア B…イ C…ウ D…エ
いじめ・不登校のない学校づくり	・【特別活動の充実】 学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定して実践したりする力を育成する。	(児童アンケート) 「学級会で友だちの考えを聞きながら、自分の考えを話すことができています。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない (職員アンケート) 「学級活動で学級会活動に取り組んでいる。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない	児童・職員アンケートで A…ア+イが90%以上かつ職アが100% B…ア+イが80%以上かつ職ア90%以上 C…ア+イが70%以上かつ職ア80%以上 D…それ以下
	・【規範意識の高揚】 社会的なルールやきまりを守る意識を高め、いじめや暴力行為のない学校をつくる。	(達成目標) (保護者アンケート) 「学校は、いじめや暴力行為のない学校づくりに努めていると思いますか。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ あまり思わない エ 思わない (児童アンケート) 「児童会生活目標が守れましたか。」 ア できた イ どちらかと言えばできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが95%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが65%以上 D…それ以下
	・【自己健康管理能力の向上】 めあてを持って、自らよりよい生活習慣を実践しようとする態度を育成する。	(バランスアップカードの結果) 早起きのめあてが守られたか。(保護者とめあてを相談) ア 70%以上 イ 60%以上 ウ 50%以上 エ 50%未満	バランスアップカードで A…ア B…イ C…ウ D…エ
学校と家庭地域の連携	・【家庭・地域との連携協力体制の確立】 家庭や地域と学校との繋がりを大切にし、家庭と地域の教育力を生かした学校づくりを行う。	(児童アンケート) 保護者とともに決めた「家庭生活」の約束(重点目標)を達成することができたか。 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (保護者アンケート) お子さんは「家庭生活」の約束(重点目標)を達成することができましたか。 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが80%以上 B…ア+イが70%以上 C…ア+イが60%以上 D…それ以下
	・【業務改善】 教職員が、心身ともに健康で、明るく元気に児童と向き合うため、時間外勤務時間が月60時間を超える教員(のべ)の割合を7%以下にする。	(勤務時間調査) ア：月60時間を超える教員(のべ)が7%以下である。 イ：月60時間を超える教員(のべ)が30%以下である。 ウ：月60時間を超える教員(のべ)が30%を超える。 エ：月80時間を超える教員がいる。	A…ア B…イ C…ウ D…エ

評価: A 達成 B おおむね達成 C・D 改善が必要